

# みはま支援学校学校運営協議会 (令和6年度 第2回記録)

協議会趣旨：みはま支援学校の児童生徒の育ちを支えるため、学校や家庭、地域が互いの役割を確認し、協働して特色ある学校づくりを推進するとともに、児童生徒も大人も共に育ち、育て合う取組の推進を図る。

開催日時：令和6年9月5日（木）9:30～11:30  
出席者：委員6名、事務局（本校職員）4名、  
議事：【開会】

- ①1学期をふりかえって（学校長より）
  - ②今後の活動計画（裕間主事より）
  - ③協議「学校運営協議会の役割について」
- 【閉会】

## ①「1学期をふりかえって」



入学式から夏休み末までの学校の取組（全校集会、宿泊学習等）について報告しました。校長から子どもたちには学びたいこと、興味あることを見つけてほしいと話しています。

### 【質疑等】

- ・みはまのこどもは美浜町で生まれて育っているわけではない中で、自分たちはこの地域で学習活動している、その地域の人を深く知っていこう、という取組、「地域で育つ みはまの子」というキャッチフレーズがすばらしい。

## ②「今後の活動計画」

◇煙樹ヶ浜・松林の  
清掃をしよう

◇高等部  
「産業社会と人間」  
～美浜町に住む魅力的な生き方  
方をしている人から学ぼう～

第1回学校運営協議会での協議、委員によるコーディネートを受け…9月以降に実現予定

前回の学校運営協議会でいただいたアドバイスをもとに、校内でも話し合いを進め、清掃活動に先立って地域（松林）の歴史や保全活動について学ぶなど、学習の広がりが生まれています。また、地域に住む魅力的な人については「美浜町にこんな人がいたとは！」と学校だけでは知ることができない地域人材を紹介いただきました。委員のコーディネートにより、事前にコンセプト等を説明いただいていたので打ち合わせもがスムーズで学校の負担も軽減しました。

### 【質疑・意見等】

#### ○清掃活動について

- ・松林は広いので、ある程度きれいになったと実感しないと清掃のやりがいがない。役場にも協力してもらい、ゴミの量を視覚化すると自分たちの取組を実感できるのでは。
- ・生徒会発信の取組だが、単なるイベントではなく、自分たちが松林を維持管理すると意識づけると持続可能な取組になっていくと思う。また、生徒会がまわりの人をまきこんで企画・運営し、活動を回しているという実感ができるとキャリア教育にもつながっていく。
- ・みはまの生徒だけではなく、保護者や地域の方をまきこんでうまく運営できると広がりができるのでは。PTAには学校からではなく、生徒会から参加を呼びかけてみてはどうか。

#### ○魅力的な人から学ぶ活動について

- ・「先生方は夢のある話をしてほしい」と思っているが、案外生徒は「どういとうきがしんどかったか」「やめたいと思ったことをどうのりこえたか」ということを知りたがる。困難を乗り越えた経験は仕事だけでなく、日頃の生活の中にも生かせる力になる。
- ・授業で何を学ばせたいか？どんな仕事があるかということだけではなく、今は成功している人にも高校生の頃があり、いろんな経験をすることで現地点にいる。その経緯について話を聴かせてもらい、うまくいなくてもチャレンジするといったことを学んでほしい。
- ・保護者としても高校生の頃、進路選択をする中でどんなことを考えていたか話してほしい。
- ・仕事を単純に選択したのではなく、何か「出逢い」があり、そこで見たこと・聞いたことをきっかけに人生の選択をしているかもしれない。「いいか、悪いか」の二択ではなく、自分と世の中の関係性に目を向けられる人に育てて欲しい。

## ③協議 「協議会の 役割に ついて」

### 【意見等】

- ・学校運営協議会にはいろんな立場の人が集まっているので具体的に学校とつながれる会にしていければ。学校からの発信を聞くだけの一方向ではなく、学校と協議会が双方向で進めていくことが必要。
- ・先生たちは協議会のことをどれくらい知っているか？意識できているか？保護者にはこの会のことがほぼ伝わっていないと思う。PTAの交流会と部分的に重ねて開催してみてもいいのでは。
- ・協議会で話し合った内容はこどもたちの授業に直結している。もっと知ってもらいたい。こどもと一緒に活動する機会を作れないか→**マンスリータイムズでの発信/次回生徒会の参加を検討する**

### 【今回のまとめとして】

こどもたちが主体となる活動を中心に据え取組を進めたい。高等部の取組もカリキュラムに連動し、人とのつながりを広げたい。